

横浜開港資料館 平成 30 年度第 3 回企画展示

明治の戦争と横浜ー伝わる情報、支える地域ー



初公開

西南戦争の従軍記録が記されている明治初期の軍隊手帳

明治 7 (1874) 年 5 月 金子正人家資料

●報道関係者向けに、初公開資料の説明会を開催します●

11 月 3 日 (土) からの展示開催に先立ち、報道関係者を対象に、本展示の注目資料について事前の説明会を開催いたします。本年 6 月に発見された西南戦争の従軍記録など、明治期の戦争と横浜市域との関係を物語る資料を間近でご覧いただけます。また、展示担当の調査研究員がその場で解説し、皆さまの質問にもお答えします。ぜひご参加ください。

日時：平成 30 年 10 月 31 日(水)15:00～16:00 * 受付開始 14:30～ 会場：当館講堂

【主な出陳予定資料】

- ・西南戦争の従軍記録(金子増五郎の軍隊手帳) **初公開**
- ・西南戦争時の横浜の風景を伝える外国新聞『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』
- ・歩兵第 9 大隊の編制表 **初公開**
- ・兵隊訓練図帖 **初公開**
- ・中山恒三郎家所蔵の日露戦争関係資料(絵葉書帳・戦時雑誌) **初公開**

* 当日取材ご希望の方は、10 月 31 日 (水) 12:00 までに展示担当の吉田 (電話 : 045-201-2169) までご連絡ください。

1. 展示会期など

会 期：平成 30 年 11 月 3 日(土)～平成 31 年 1 月 27 日(日)

会 場：横浜開港資料館 新館 企画展示室

開館時間：9:30～17:00(入館は 16:30 まで)

11 月 30 日(金)、12 月 21 日(金)は展示室のみ 19:00 まで開館(入館は 18:30 まで)

入 館 料：一般 200 円、小中学生 100 円

休 館 日：月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)、12 月 28 日～1 月 3 日

主 催：横浜開港資料館

共 催：横浜市教育委員会

後 援：朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、
毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk

2. 展示趣旨

今から 150 年前に始まった明治時代は、日本が試行錯誤を重ねながら近代国家へと生まれ変わっていった時代でした。それと同時に国内外で武力と武力が衝突する戦争の時代でもありました。戊辰戦争によって江戸幕府を倒した明治政府は、国内の安定を図りつつ、東アジアに進出する欧米勢力に対抗するため、近代的な軍隊を整備していきます。明治 6(1873)年 1 月、政府は徴兵制を導入、江戸時代の武力であった土族の存在を否定するとともに、次第に兵役を国民の義務としていきました。そうしたなか、現在の横浜市域に住む人びとも軍隊とかかわり、また、戦争に動員されていきます。

本展示では、情報の伝達に注目しつつ、明治期の横浜と軍隊、特に陸軍を中心に、西南戦争や日清戦争、日露戦争と地域社会との関係を紹介していきます。

3. 展示構成

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 洋式軍隊の登場 | 7 軍備拡張—東京から甲府へ |
| 2 明治維新と軍事力の整備 | 8 軍人生活 |
| 3 西南戦争 | 9 軍事演習 |
| 4 立憲国家の誕生と軍制改革 | 10 外国人が描いた軍隊 |
| 5 日清戦争 | 11 横浜の軍事施設 |
| 6 日露戦争 | 12 戦没者慰霊 |

4. おもな展示資料 (全展示数 約 150 点)

① 西南戦争の従軍記録 明治 7 (1874) 年 5 月 金子正人家資料 **初公開**



●平成 30(2018)年 6 月に発見された明治初期の軍隊手帳

所収者は武蔵国久良岐郡松本村(現・横浜市)出身の金子増五郎。横浜市域在住者が西南戦争に従軍していたことを示す貴重な資料である。明治初期の軍隊手帳は、全国でも数えるほどしか見つかっていない珍しいもので、徴兵制導入直後の陸軍の様子がわかる。黒船が来航した嘉永 6(1853)年に生まれた金子は、明治 7 年に徴兵検査を受けて合格、抽籤の結果、東京鎮台隷下の歩兵第一連隊第三

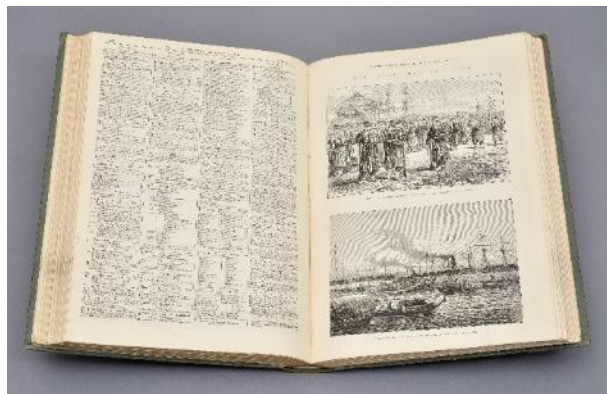
大隊に入隊する。その後、西南戦争に参加、軍隊手帳には、「明治十年三月十日、東京出発、全月十七日肥後国高瀬表に於て、出征第四旅団へ編入、全月二十日より全国田原二股役より戦闘、全年五月二日、第一旅団へ転入、処々交戦、全年九月廿四日平定に付、全年十月廿八日凱旋」と記されている。激戦となった田原坂の戦いに参加していたことも確認できる。

② 西南戦争時の横浜の風景を伝える外国新聞

『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』 当館蔵

●イギリスで報じられた西南戦争の様子

明治 10(1877)年 2 月、鹿児島県の西郷隆盛の蜂起によって始まった西南戦争では、九州地方が主戦場となったが、遠く離れた横浜も無関係ではなかった。横浜港は全国規模で行われた軍事動員の輸送拠点として機能し、市街地は多くの兵士で溢れた。その様子を画家のチャールズ・ワーグマンが描き、イギリスの新聞が紙面で報じていった。日本の戦争の情報は遠くはなれたヨーロッパにも伝わっていったことがわかる。



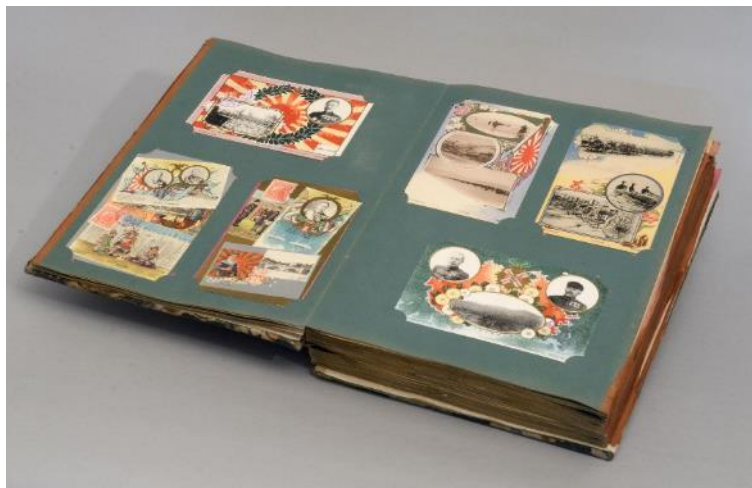
③ 歩兵第 9 大隊の編制表と兵隊訓練図帖 明治初期 当館蔵 初公開



●政府直轄の軍事力が士族から徴兵へと切り替わることを示した貴重な資料

本資料は明治 6(1873)年 4 月に東京鎮台の新潟営所で誕生した歩兵第 9 大隊の編制表で、同部隊は同年 6 月に群馬県の高崎に移駐した。幹部は大隊長の内藤之厚(長州出身)をはじめ、西南雄藩の出身者が多いのに対し、兵士は大泉(庄内)、米沢、新発田、富山など、日本海側に位置する諸藩の兵力から構成されている。ただし、各小隊の最後に「徴兵二十三人」とあるように、構成員の変化が見られ始めている。また、兵隊訓練図帖も貴重な資料で、同時期の訓練風景や兵舎内部の様子がうかがえる。

④ 横浜市内の旧家に残った日露戦争の記録 中山恒三郎家蔵 初公開



都筑郡川和町(現・横浜市都筑区)の豪商・中山恒三郎家が所蔵していた日露戦争関係の絵葉書。平成 27(2015)年から開始した調査によって、同家の資料群からも絵葉書や戦時雑誌(『日露戦争実記』)などが数多く見つかった。これらの資料は、中国大陆で行われている戦争の情報が横浜地域にも伝わってきたことを示している。家族や友人を兵士として送り出した村々では、そうした情報に対する関心は高く、戦時体制を支える力になっていったと考えられる。

5. 展示関連事業

展示関連講座

第1回 11月24日(土)「日清戦争と横浜華僑社会」伊藤 泉美(横浜ユーラシア文化館副館長)

第2回 12月8日(土)「日露講和と横浜の騒擾」吉田 律人(当館調査研究員)

時間: 各回 14:00~15:00 会場: 当館講堂

受講料: 各回 300 円 定員: 各回当日先着 80 名

展示担当者による展示案内

11月3日(土)13:30~、11月30日(金)18:00~、12月21日(金)18:00~、1月19日(土)13:30~
各回 30 分程度を予定しています。入館券をお持ちのうえ、新館2階企画展示室入口にお集まりください。

展示開催記念シンポジウム「軍隊と横浜」

戦後、長らく戦争や軍隊に関する歴史研究は忌避される傾向にありました。しかし、90 年代に入ると、次第に軍隊に関する歴史研究が登場し、軍隊と地域社会との関係を考える研究が進みました。近年はシリーズ「地域のなかの軍隊」(吉川弘文館)や「軍港都市史研究」(清文堂出版)が企画されるなど、近現代史研究の一つの流れをつくっています。また、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館をはじめ、各地の博物館・資料館においても「軍隊と地域」をテーマとした企画展示が開催されています。

シンポジウム「軍隊と横浜」では、最新の研究成果を踏まえつつ、将来的な研究の進展を見据えながら、戦争・軍隊と横浜市域との関係について議論を深めていきます。

基調講演 荒川 章二 (元国立歴史民俗博物館教授)

関連報告 1 中村 崇高 (出版文化社シニア・アーキビスト)

関連報告 2 吉田 律人 (当館調査研究員)

コメント 上山 和雄 (横浜都市発展記念館館長)

司会 羽田 博昭 (横浜市史資料室主任調査研究員)

日時: 1月12日 13:30~16:30 会場: 当館講堂

参加料: 500 円 定員: 80 名(応募者多数の場合は抽選)

申込み方法: 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、
下記の住所へお送りください。はがき 1 枚につき 1 名様のみのお申込みです。

〒231-0021 横浜市中区日本大通 3 横浜開港資料館「軍隊と横浜」係

締切: 12月19日(水)必着

* 文面が消えてしまう恐れがありますので、消せるボールペンでの記載はご遠慮ください。

展示図録『明治の戦争と横浜』の販売

A4 判、48 頁、900 円(予価・本体価格)

お問合せ先			
横浜開港資料館	展示担当	吉田 律人	TEL 045-201-2169
	副館長	斉藤 司	TEL 045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。横浜開港資料館 田中(広報) TEL: 045-201-2100